

私立大学情報教育協会
平成 25 年度 第 2 回 C C C 教育学グループ運営委員会

- I 日時：平成 25 年 12 月 21 日（土） 13：00～15：00
II 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
III 参加者：舟生委員（座長）、三尾委員、竹熊委員（Skype 参加）
事務局 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 配布資料

- 資料①平成 25 年 FD/ICT 活用研究委員会の活動計画
資料②教育学教育における教育改善モデルへのアンケート結果
資料③早稲田大学 FD シンポジウム資料
資料③-2 毎回の授業アンケートで工夫の効果を確認
資料③-3e ラーニング学習者が求めるメンタ資質とは何か
参考 1 誰でも無料ネット講義（新聞情報）
参考 2 大学の卒業認定厳しく（新聞情報）
参考 3 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について（第四次提言）
参考 4 教授会の権限、4 項目に（新聞情報）
参考 5 授業に「タブレット革命」（新聞情報）
参考 5 FSP 実践講座の授業内容と運営の工夫（Future Skills Project 研究会活動報告）

V. 議事概要

(1) アンケートを踏まえた教育改善モデルの実現に向けた課題について

委員より資料③-1(早稲田大学 F D シンポジウム配布資料)が説明され、「LearnerCentered」の考え方、「レスポンスアナライザー（クリッカー、Web 版クリッカー）」、「反転講義の実践事例」等について解説があった。

次の 2 点について、資料③-3、追加資料を参照して意見交換を行った。

① ファシリテーター”の役割について

早稲田大学 e-School のメンター（教育コーチ）に学習者が求める資質
修士課程修了者が従事し、専門的な内容をわかりやすく指導することが求められていることなど（資料より）

② ピアチュータリングについて

「はこだて未来大学」での学部学生同士によりピアサポートの実践調査と育成プログラムの開発研究（科研費）について（資料より）

③ 創価大学での S A、早稲田大の後輩ナビなどの実践がさらに紹介された。

委員より、教育学分野のモデルで大学院生等によるファシリテーターの役割を重視している点をさらに強調したほうが良いという意見があった。これらを総じて、以下の意見にまとめた。

- ① 教育学分野では、それぞれの到達目標を実践する場として学部内での T A、S A などの活動（Intenership）を体験することで、学生がそれまでの授業での学びを振り返り、新たな学びの意欲につながることを期待できる。また、本分野で学んだことが学生に習得されているかどうかを測ることもできよう。さらに、そのような学生の到達度を検討することで教育学分野でのモデル実施の評価にもつながるとも考えられる。これらは、教育学分

野の特徴であり、さらに議論を深めることとした。

- ② アンケート意見にあるFDについて、大学セミナーハウスの活動などについて意見交換し、大学での実践者の意見を集約する重要性が確認された。

(2) 今後の研究の進め方について

能動的な学修（アクティブ・ラーニング）を実践するための事例、ネットコモンズのような活動を紹介して、対面での交流会を企画し、実践者の意見交換を映像等で記録・配信していくことを検討する。

(3) 次回開催は、平成26年4月12日（土）13:00-15:00

次回開催は、平成26年4月12日（土）13:00-15:00